



アドバンス・ケア・プランニング
(ACP)

の事例となります。

ACPについての事前資料

目を通しておいてください



The slide contains text about ACP cases and pre-materials, with a logo for Wakakoukai Health Care Corporation on the right.

アドバンス・ケア・プランニング
将来の自己決定能力の低下に備えて
今後の治療・療養についての気がりや価値観
を患者・家族と医療従事者が共有
しケアを計画する包括的なプロセス



いつ・誰が・どこでやっても構わない



This slide explains the purpose of ACP and its inclusive nature, featuring a yellow arrow and a cartoon character.

自分らしく「生ききる」サポート



医療者目線ではなく

患者目線の治療・ケア



This slide contrasts medical-centered care with patient-centered care, featuring a speech bubble and a group illustration.



中河内がん診療ネットワーク協議会 緩和ケア部会

市立東大阪医療センター

八尾市立病院・市立柏原病院

八尾徳洲会病院・石切生喜病院・若草第一病院

東大阪市（布施・河内・枚岡）医師会

八尾市医師会・柏原市医師会



病院・在宅との連携が不可欠

共有ツールがあったらいいな

お薬手帳のように提示できる
ものACP冊子作りしました！！

若草第一病院ホームページよりダウンロードできます



アドバンスケアプランニングとは

「将来の変化に備え、ご家族や大切な方と、医療、介護従事者が一緒に、人生観や価値観、希望に沿った医療やケアなどを話し合う」ことです。

昭和・平成・令和と時代が変わっていくように、私たち自身もいろんなことが変化します。いつまでもこのままだと願っていても、歳を重ねると私たちの身体や認知機能は衰えます。それに加えて、病や事故、災害は突然やってきます。急な病気や事故に遭遇したとしても、自分らしく穏やかに生きるために、あなたの大切にしていることや、受けたい医療やケア、どこで過ごしたいのかを考え、周囲の人や医療者に伝えておきましょう。人の気持ちは変わります。

今決めることが重要ではなく、思いを伝えておくことが大切です。

あなたの思いを信頼できる人と共有して記録に残していれば、あなたの望む医療やケアの方向性を考えることができます。

一度きりではなく病気になった時、介護が必要になった時、人生の節目（誕生日・お正月・親戚が集まった時など）に何度も繰り返し考え話し合うことが大切です

家族や大切な人とステップ1・2を語りあってみてはどうでしょう。
治療ケアを受けている人は医療者とも語り合ってみましょう



ステップ1

●あなたのことを教えてください

- ご家族は？
- 仕事は？
- 趣味や楽しみは？
- 大切なもの？
- 大切な人に話しておきたいことは？
- 人生において支えになった人、出来事がありますか？
- あなたの人生において、特に記憶に残っていることや大切だと考える事はどんな事ですか？

ステップ2

あなたの人生にとって幸せと思うことは？ と考えてみてください。例えば・・・

- ☐ 楽しみや喜びにつながる可能性があること
- ☐ 身の回りのことが自分でできること
- ☐ 人として大切にされること
- ☐ 社会や家族の中で役割が果たせること
- ☐ 痛みや苦しみが少なく過ごせること
- ☐ 人の迷惑にならないこと
- ☐ 自然に近い形で過ごすこと

・
・
・

ステップ3

●身体のことを教えてください

- 身体のことでは気がかりなこと？
- 病状説明はどうしてほしい？
- 受ける治療に対する希望は？
- 現在治療中または経過観察中の病気は？
- 医師からどのような説明を受けている？
- 介護が必要になった時どこで療養したい？
- 突然事故や脳出血で生命が危ぶまれる状況になった時
延命処置をどうするか考えておいてください

ステップ4

●後悔しない人生を送るために

- 今現在気がかりなことはありますか？
- やりたいことはありますか？



- 代理決定者について
あなたのことを信頼して任せられる人、
あなたのことを一番わかってくれていてもしもの時に
判断してくれる人はいますか？

代理決定者氏名
関係性
選んだ理由

Keyword



一つ一つの項目において
なぜそう思うのですか？

その人らしさを知るためにはなぜが大事

-  冊子を渡して書いてくださいとは絶対ダメ
-  冊子をうめる目的にしてはダメ
-  冊子はツールとして活用（大切な人や医療従事者と一緒の行う）
-  その人らしさを知ることから始まる
その人の思いを知る
-  ACPはどう生きるかのケア
-  治療や患者状況が変わるたびに思いを確認
-  それぞれの聞いた思いをつなぐ

目標

「その人らしく生きること」
を医療者として支える

症状や病気に焦点を当てるのではなく
「その人自身」に関心を寄せて
対話する

意思疎通が困難な場合はご家族・大切な人
家族としてどう思うではなく
本人だったらどう思うとおもう？
本人だったら・・・の思いを代弁してもら



大阪府のACPの取り組み情
報

